

Title	ベルセポリス王宮の新發掘
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.12, No.3 (1933. 8) ,p.108(486)- 108(486)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19330800-0108">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19330800-0108</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ベルセポリス王宮の新發掘

シカゴ大學東方研究所長ブレストド博士の古代大文化史の改訂版が中々來ないので、變だと思つてゐた處、二月九日の『ロンドン・タイムス』週刊の所報と、同博士助手からの手紙でその理由が明となつた。それはメソポタミヤに素晴らしい發見がなされ、所長としての同博士が急遽現地へ赴かれたがためであつた。

シカゴ大學は同地十二ヶ所に發掘を試みつゝあるのであるが、その一つであるベルシヤの古都ベルセポリスに於て二ヶ年間發掘をつゞけた結果今回遂に古代史上の重要な發見をなすに至つた。現地派遣團長 Dr. Ernst Herzfeld の手になる報告が同所長ブレストド博士によつて公表せられ、『タイムス』週刊に掲載せられてゐる。その一部を略記せんに、

紀元前三三〇年アレクサンダー大王により燒棄せられたベルセポリス諸王宮の塵埃堆積裡二十六呎の處に於て、キルスの頃に溯る宏大なる彫刻面が發掘せられた。この發掘の中には一連の壁面彫刻があり、之を繼ぎ合すときは高さ五、六呎長さ約一千呎に及ぶ羽目をなす。この彫刻は細部の精巧なること比類なきもので、重要な歴史的銘刻を含んでゐる。ダリウスとクセルクセスの建築したる諸王宮の壁面は乾燥煉瓦であつたけれども、柱廊附廣間、窓孔、出入口等は黒檀の様に研磨した黒石で出来てゐる。この黒石の上にベルシヤ大王が配下二十一ヶ國の大使を接待せんとして、ベルシヤ官吏の大謁見を行はんとする宏大なる光景が示され、その使節達は東洋の賢人の禮に倣つて、貢物を運んでゐる。

謁見室へ通ずる堂々たる二個の階段の間に見出される。同探險隊は之と同時に、この王宮から二哩足らずの處で縱横三千呎に六千呎、高さ十呎の丘の下から前四〇〇〇年の石器時代の完全なる村落をも出土してゐる。(間崎万里)

